未来につなぐ お茶の水女子大学 創立150周年記念事業

お茶の水女子大学は、2025年11月29日に創立150周年を迎えます。これに向けて特設サイトを開設し、様々な記念事業を実施していきます。今回の特集では、本学の創立150周年記念事業実行委員会委員長の加藤美砂子理事・副学長にお話を伺います。

赤松：今日は、お時間をいただきありがとうございます。最初に、創立150周年記念事業の実行委員会について教えていただけますか。

加藤：創立150周年記念事業委員会実行委員会には、7つの分科会（※下図）があり、2021年7月に第1回を開催して以降、すでに6回の委員会を開催し、進捗状況報告や今後の取組について話し合っています。

赤松：7つの分科会では、どのような取組をされていますか。

加藤：たとえば、150年史分科会は、お茶の水女子大学の150年の歩みをまとめた150年史を作成しており、2025年の記念式典で、150年史に関するパンフレットを配り、2027年3月に『お茶の水女子大学150年史』を刊行する予定です。

赤松：150周年基金分科会も活動を始めていらっしゃいますか。

加藤：2022年11月29日に150周年特設サイトを立ち上げ、記念募金の依頼をスタートさせました。寄附金を集めるには、何のために集めるのかが重要になります。150周年記念事業について説明するために、リーフレットや趣意書を作成しました。150周年基金分科会では、このように寄附金の募集に向けた準備を行っています。ご寄附いただいた方には、お名前を刻銘した銘板を、同窓会館跡地に建設予定の複合施設に掲示する予定です。

赤松：お名前があるとみなさん、新しい施設に行ってみたい気持ちになりますね。

加藤：創立150周年記念事業は、みなさんに関わってもらいたいと思っています。シンボルマークも、在学生、卒業生はもちろん、附属学校園の生徒を対象に募集して作りました。シンボルマークは、記念募金のお願いにあたっての封筒やクリアファイルなどにも活用しています。これは、記念物品等分科会が担当しており、これから記念式典で販売する物や贈呈品を作る予定です。シンボルマークは、教職員のみなさんの名刺にも入れていただくなど活用して、創立150周年を周知していきたいと思います。

赤松：国際コミュニケーション分科会は、どのようなことをしているのですか。

加藤：記念関連イベントを開催したり、協定校からメッセージをいただいたりする予定です。

赤松：広報分科会が制作した150周年特設サイトで募集している「150のメッセージ」にも、本学で学ばれた留学生や海外在住の卒業生などからメッセージが届いています。150周年を海外からもお祝いいただけるのはうれしいですね。

加藤：はい。みなさんと一緒に盛り上げたいと思っています。

赤松：学生分科会もありますが、学生による企画もあるのでしょうか。

加藤：150周年が2025年ということもあり、まだ具体的には始まっていませんが、学生のみなさんにもいろいろな形で盛り上げて欲しいと思っています。このGAZETTEを手に取る学部の新入生は、2025年に3年生となります。ぜひ、創立150周年事業に積極的に関わっていただきたいと思っています。

赤松：祝賀の機運を高めていくにあたり、記念式典分科会では今後どのようなイベントを予定しているか教えてください。

加藤：2025年11月29日に記念式典を開催しますが、それだけではなく、2025年には、創立150周年を記念した様々なシンポジウムやセミナーを企画する予定です。委員会が企画するだけでなく、各部局での企画でも、150周年を盛りあげたいと考えています。

赤松：セミナーやシンポジウムに、150周年の冠をつけることで、広く周知もできますね。最後にみなさまへのメッセージをお願いします。

加藤：本学は1875年東京女子師範学校として創立されました。それから、150年間、途絶えることなく女子教育を継続してきた歴史には、非常に重みがあります。お祝いすべきこと、お祝いしたくなることだと思います。たとえば、昔は誕生日というと、ケーキを食べられるのがうれしいぐらいに思っていましたが、だんだん、年をとって誕生日を迎えると、この年まで健康でいられるのが、うれしいとなりますよね。これと似ていると思います。150年も存続し、発展しているお茶の水女子大学の150年目のお誕生日を、みなさんとお祝いをしたいと思っています。ただ、150周年というのはお祝いして終わりではなく、新たな出発点です。これから先、どう変わるかわかりませんが、次の時代を目指して、常に発展し続ける大学でなければいけないと思います。

赤松：2023年は、150周年まであと2年の年です。在学生、卒業生、教職員、そして関係者みなさんと一丸となって盛り上げていきたいですね。本日は、たくさんのお話をありがとうございました。

聞き手：赤松 利恵
広報・学術情報担当副学長、広報推進室長
基幹研究院自然科学系 教授

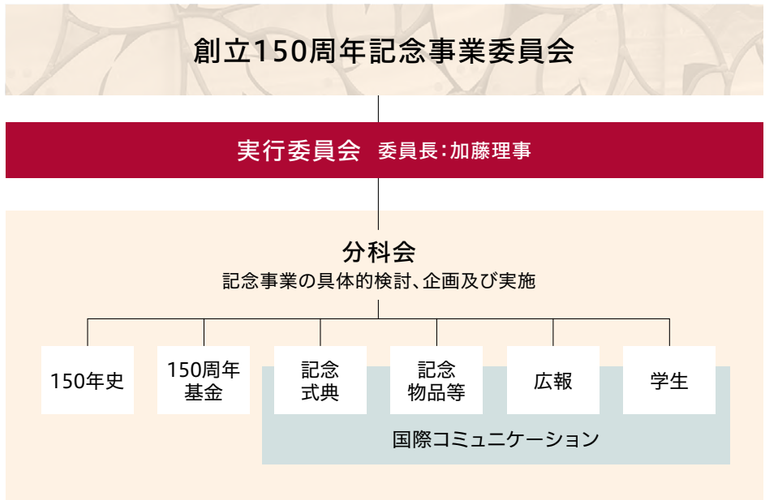

図 お茶の水女子大学 創立150周年記念事業委員会体制

加藤 美砂子
理事・副学長
（総務・理系女性育成・創立150周年事業担当）
2021年度より現職。お茶の水女子大学教授。専門は、植物生理学。

創立150周年特設　サイトのご紹介

ぜひご覧いただき、祝賀の機運を　高めていただけますと幸いです。

150年の歩み

本学の歴史をご紹介しています。特設サイトから校歌「みがかずば」を視聴いただくこともできます。

1875～

開校と女子高等師範学校への変遷

東京女子高等師範学校
太田金山遠足の光景

1923～

震災からの復興。新校舎で切る新たな門出

現在の新校舎

1949～

そして、「お茶の水女子大学」へ

2004～

国立大学法人化“真摯な夢の実現の場”として存在

正門

2025～

創立150周年。さらなる発展に向けて

日本の国立女子大学として最も古い歴史を有する本学は、2025年に創立150周年を迎えます。これを新たな始まりと捉え、今後もさまざまな取組を行っていきます。

150のメッセージ

卒業生、在校生、教職員、関係企業等の皆様からのメッセージをご紹介しております。創立150周年の記念日まで、150人・グループの掲載を目標に、つながりをひろげていきます。ぜひ、メッセージをお寄せください。詳細は、特設サイトをご覧ください。

例えば…

楽しい研究室ライフ♪

共に学ぶ：図書館でのピア・サポート（LALA）

お茶の水女子大学創立150周年記念募金に関するお願い

本学が将来にわたってグローバル女性リーダーを社会に輩出し続ける拠点であるために、創立150周年を迎えるにあたり、４つの記念事業を計画いたしました。
この記念事業を通して教育・研究活動の充実化により一層取り組んでまいります。
皆様のご賛同およびお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

4つの記念事業

(1)創立150周年記念プロジェクト事業

令和７年(2025年)11月29日の本学創立記念日に、創立150周年記念式典を挙行
記念式典に前後して関連イベントの開催
先端的教育・研究をテーマとした講演会・国際シンポジウムなどを開催

(2)ESGキャンパス整備(同窓会館跡地整備)事業

大学に隣接する同窓会館跡地に新しい複合施設を建設予定

(3)創立150周年記念学修支援奨学基金事業

未来を支える人材を育む大学の機能強化と新たな時代に対応する学びの支援の充実

(4)創立150年史編纂事業

令和８年度(2026年度)に刊行予定の『お茶の水女子大学150年史』編纂のための事業

◆新入・編入・転入生の皆様へ

入学年の12月末日までのご寄附は寄附金控除の対象外です。

◆寄附者からのメッセージ

150周年特設サイトでは、インターネットからご寄附いただいた皆様からのメッセージをご紹介中です。皆様からのメッセージをお待ちしております。

https: //150th.pr.ocha.ac.jp/donations/

創立150周年記念事業シンボルマークのご紹介

記念事業で使用するシンボルマークは、在学生、卒業生・修了生、教職員(元教職員含む)、附属学校園の生徒・児童・園児、その卒業(園)生を対象に募集したところ、多くの応募作品が集まりました。創立150周年記念事業委員会における厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞5点が決定しました。最優秀賞を受賞された、文教育学部言語文化学科3年(※学年は受賞当時)の山本千智さんにインタビューを行いました。

シンボルマークのコンセプトを教えてください。

お茶大の歴史を代表する正門には、明治時代の女学生。女子教育の先達として道を切り開いてきた150年、女学生はこれからも全ての人が幸せに暮らせる社会の実現を目指し、未来を指差しています。これは同時に、お茶大がいつの時代も女子大として最高峰にあり、優秀な女性を育てているという自負と誇りを示した1本指でもあります。女学生と150の文字をつなげ、150年を迎えたあとも、その姿勢は引き継がれていくという願いを込めました。

応募されたきっかけや工夫された点を教えてください。

もともとデザインに興味があって、募集期間が延長されたことを知り、Adobe illustrator(デザイン用ソフト)を使用しながら春休み期間に制作しました。特に苦労したのはカラーリングです。色次第でマーク全体の印象が大きく変わるため、10種類以上のパターンを作成しました。中央の女学生の着物は「お茶」の緑色を使用し、お茶大らしさを意識しながら、象徴としての正門と、袴を着用した女学生を配置し、歴史を表現したところがポイントです。

受賞後の反響はありましたか。

家族や友達、教員から「すごい！」と褒めてもらい嬉しかったです。デザインは趣味でやっていたことから、作ったものを人から評価されるといった機会はなかったため、自信がつきました。

山本さんご自身の今後の決意があればお聞かせください。

4月から4年生になり、学生生活最後の1年となります。悔いが残らないように過ごし、卒業論文や就職活動にも力を注いで、充実した日々を送りたいです。また、創立150周年を迎える際は卒業してしまっているので残念ですが、特設サイトをはじめ、自分の作ったシンボルマークがどのように使われていくのか見守っていきたいです。

担当：工藤 和恵　基幹研究院自然科学系　准教授